

会議録

会議の名称	清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議
開催日時	令和7年10月20日(月) 午前10時30分から正午まで
開催場所	清須市役所北館2階 第1・第2会議室
議題	<p>1 開会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>3 議事</p> <p>(1) デジタル田園都市国家構想交付金を活用した事業について</p> <p>(2) 清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略2020の評価・検証について</p> <p>(3) 物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用した事業について</p> <p>4 閉会</p>
会議資料	<p>会議次第、委員名簿、配席図</p> <p>〔会議資料〕</p> <p>資料1 デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ)を活用した事業</p> <p>資料2参考 デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ)を活用した事業におけるこれまでの取組</p> <p>資料2 デジタル田園都市国家構想交付金(デジタル実装タイプ)を活用した事業</p> <p>資料3 清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略2020の概要及び評価・検証</p> <p>資料4 物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用した事業</p> <p>参考資料 清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 開催要領・公開等</p>
公開・非公開の別(非公開の場合はその理由)	公開
傍聴人の数(公開した場合)	1人
出席委員	水谷(香)委員、倉形委員、名倉委員、岡本委員、小川委員、河津委員、高山委員
欠席委員	浅野委員
出席者(市)	岡田企画部長兼人事秘書課長
事務局	〔企画部企画政策課〕 神野企画政策課長、山内課長補佐、秋山副主幹、岩田係長
会議録署名委員	河津委員、高山委員

1 開会

(神野企画政策課長)

ただいまから、令和7年度 清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議を開会いたします。

会議の開催にあたりまして、はじめに、企画部長の岡田よりごあいさつを申し上げます。

2 あいさつ

(岡田企画部長兼人事秘書課長)

本日は、大変お忙しい中、清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

また、日頃より、市政各般にわたり、ご理解・ご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

昨年度は、本市の新たな地方版総合戦略であります、「清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略 2025」を策定いたしました。策定にあたりましては、本会議の委員の皆さまから多くのご意見を賜りましたこと、改めてお礼申し上げます。

今年度から、この新たな戦略に基づく地方創生の取組がスタートしておりますが、戦略の基本目標で掲げたとおり、「子育て支援や子どもたちの居場所づくり」、「観光の取組や企業立地の推進による交流・滞在人口の拡大」、そして、「人口が減少していく中でも持続可能な地域をつくるための市民協働の取組やDXの推進」に力を入れて取り組んでまいります。

さて、本日の会議では、ひとつ前の総合戦略であります、「清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略 2020」の評価・検証や、地方創生に向けて、国の交付金を活用して実施した事業について、ご報告させていただき、ご意見を賜りたいと思います。

今後の清須市の更なる発展に向けて、委員の皆さまの専門的見地から、幅広くご意見を頂戴できたらと考えておりますので、よろしく願いいたします。

簡単ではございますが、私からのご挨拶とさせていただきます。

改めまして、本日は、よろしく願いいたします。

(神野企画政策課長)

本日は、今年度から新たにご出席をいただいている方も多くおみえですので、事務局から、お配りした委員名簿の順に、委員の皆さまのご紹介をさせていただきます。

《事務局より委員紹介》

(神野企画政策課長)

以上、8名の委員の皆さまで構成する会議となりますが、本日は、8名中7名の方にご出席をいただいております。出席者が委員の過半数を超えておりますので、会議が成立しておりますことをご報告申し上げます。

それでは、ここから会議の取り回しは水谷座長にお願いしたいと思います。

(水谷座長)

皆さん、こんにちは。

本会議は、堅苦しい会議というよりも、もちろん真剣にはありますが、リラックスして、なるべく意見がたくさん出るような対話の場・意見交換の場にしたと思っています。

本日は、新しいメンバーの方も多いので、分からないことなどありましたら気軽にお尋ねいただきまして、率直なご意見を頂戴できますとありがたく思います。よろしくお願いいたします。

では、はじめに、本日の会議録署名委員の指名をさせていただきます。いつも名簿の順にお願いしておりますので、今回は、河津委員と高山委員にお願いしたいと思います。

3 議事(1) デジタル田園都市国家構想交付金を活用した事業について

(水谷座長)

それでは、議事(1)「デジタル田園都市国家構想交付金を活用した事業について」の説明を事務局からお願いします。

(岩田係長)

デジタル田園都市国家構想交付金を活用した事業ということで、今回は、交付金のメニューのうち、「地方創生推進タイプ」を活用した、観光や産業の振興を図る事業と、「デジタル実装タイプ」を活用した、公共施設の予約システムの導入事業の2つの事業がございます。

この交付金を活用した事業は、毎年、本会議において、取組が効果的であったかどうかの評価・検証を行うこととなっておりますので、本日は、委員の皆さまのご意見をいただけたらと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、まずは資料1について、ご説明させていただきます。

《資料1に基づき説明》

(水谷座長)

市の「まち・ひと・しごと創生総合戦略2020」の取組の中で、特に、観光・産業振興の取組については、国の交付金を受けて、様々な取組を進められてきたということで、事務局から説明をいただきました。

これに対して、委員の皆さんから、ご質問やご助言などありますでしょうか。

また、KPIについて、全ての項目で目標を達成することができたということでしたが、皆さんの実感としてどう感じるかという点などありましたら、ご意見をいただきたく思います。

(高山委員)

資料1の「6. KPI」のところで、「清洲城(有料)及びあいち朝日遺跡ミュージアムの入場者数」がありますが、実績値を見ますと、令和5年度に対して令和6年度が若干減ってしまっていて、この原因として思い当たることなどありますか。加えて、今後また伸びてきそうだとか、見込みはどうなりますか。

(岩田係長)

おっしゃるとおり、令和6年度は前年度と比較して若干実績値が下がってしまっています。この要因の分析等は、はっきりとできていないのですが、市としては、目標値を十分に達成しているということで、高い水準を維持できていると前向きに捉えています。

また、今後の見込みについては、具体的な数字で申し上げられなくて申し訳ないのですが、令和8年に放送予定のNHK大河ドラマ「豊臣兄弟！」の中で、一部、清洲城が舞台となるという話がございます。

過去にも、大河ドラマを活用したPRということで、トークショーなどのイベントを開催したことがありますので、今回も、イベントの開催を検討するなど、歴史が好きな方や大河ドラマのファンの方に清須市を訪れていただくきっかけをつくることで、入場者数の増加につなげていけると良いと考えています。

(倉形委員)

清須市にとって、清洲城があるということはやはり大きな意味があって、観光のために様々な施策を打たれて、入場者数も目標を達成できたということで、本当に素晴らしいことだと思いました。

その中で、おそらく観光客を増やそうということで、色々取り組まれていると思うのですが、それ以外に地元の方、特に子どもたちや若い世代が、清洲城を自分の地域のバックグラウンドですとか自信になるものの1つとして認識されていくようになると、さらにこの地域に人が留まって、自分の育ったまちへの誇りに繋がっていくのではと思いました。

そういった地域の方たちの、特に子どもたちが清洲城や清須のまちに誇りを持つことに繋がる取組というのは考えてみえるのでしょうか。

と言うのも、私自身が、過去に滋賀に住んでいたことがあるのですが、彦根城ってすごく地域の人たちにとって自分のまちの誇りになっていて、小学校の近くにお城があったというのもあるのですが、毎日のように遊びに行ったりしていて、身近な存在になっていたような気がしたので、清洲城もそうになっていくと良いなと思い聞いてみました。

(岩田係長)

今後の具体的な取組というお話はなかなか難しいのですが、現在行っていてそれに近いもので言いますと、資料の中にもありました「きよすイルミ」というイルミネーションのイベントは、令和4年度から市の事業として実施しているもので、現在は、お城へのプロジェクションマッピングの投影をするなど、普段とは違った清洲城の姿を見てもらえるイベントとして、地域の方にも楽しんでいただけるように開催しています。

特に、令和6年度は子ども向けの粗品の配布やガチャガチャ体験なども実施して、市外からの来場者もちろんみえると思うのですが、地域の方が親子連れで来て気軽に楽しめるイベントになったのではないかと思います。

清洲城が地域の方々のまちへの誇りの象徴になればというお話は、清須市にとって大事なことだと思いますので、今後もできることがないか、前向きに検討していきたいと思います。

(岡本委員)

実は、私が数年前に現在の部署で担当をしていた当時、ちょうど清須市の職員の方から、先ほどご説明いただいた、ふるさとのやかたの情報発信力の強化や、新しい特産品の開発を進めたいということで相談を受けていました。

それが今、これだけの成果を上げられたのだなと感慨深いものがあります。

特に、特産品の成果が素晴らしいのですが、どのように進めていかれたのかというのに大変興味があります。

また、我々の部署は、こういった交付金の活用を推進している立場で、今年からは、交付金の国の予算額も倍になり、申請の件数も見直されているということで、大変使い勝手の良い交付金になってきています。

清須市さんも、令和2年度から令和6年度にかけて、これだけの成果を挙げられたということで、今後も交付金の活用を検討いただけたらと思う次第でございます。

ご相談いただける機会があるようでしたら、我々も全力でご協力させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(岩田係長)

特産品開発の中では、主なところだと「清須からあげまぶし」がこの取組の中で生まれており、新しいご当地グルメとして定着してきていると感じます。

現在は、市内8事業者9店舗で提供されていますが、開発当時から関わっていただいた飲食店も多く、新しいご当地グルメを作りたいということをして市の方から呼びかけて、賛同いただいた事業者さんにご協力をいただきながら開発を進めました。

また、同じく特産品開発の中で生まれたものに、「清洲城信長カレー」もございまして、こちらは、カレーハウス CoCo 壺番屋さんに監修として携わっていただいています。CoCo 壺番屋の1号店が清須市内にございまして、本市に非常にゆかりのある企業さんということで、ご協力をいただいて、現在3種類のカレーを開発・販売しています。

このように、新しい特産品の開発は、地域の事業者と連携し、皆さまのお力添えがいただけたからこそ、実現ができたものと考えております。

(名倉委員)

会議資料を見せていただいて、色々取組をされて、KPIの目標値もすべて達成されたということで、市の職員と関係機関の方々が協力のもと進められて、素晴らしい結果だなと思っております。

そんな中、手前味噌にはなるのですが、資料にも出てきた「きよすイルミ」は、市と商工会が協力して共催で実施をさせていただいているものです。

また、特産品の開発でも、「清須からあげまぶし」の開発に関わった事業所もすべて商工会の会員ということで、その都度いろいろご相談あった中で、商工会としてもPRをさせていただいたということもございます。

このように改めて見ると、やはり商工会の役割の大きさ、商工会、事業所の方一人ひとりの力のたまものだと感じます。

これから社会経済がますます厳しくなっていく中で、商工会の役割は、さらに必要とされてくるのではないかなと思います。

清須市からも、是非、これからも強力なバックアップをお願いしたいなと思います。

(水谷座長)

皆さんが頑張っていたことが、こうして数字に表れていると思うのですが、実態として、頑張っていた事業者の方々にメリットはあったのかどうかということもお聞かせいただいてもよいでしょうか。

(名倉委員)

私が話を聞いた事業所さんについても、「清須からあげまぶし」は、今でも多くの注文があるということで、すごく定着していっていると感じます。

「きよすイルミ」については、もともと過去には商工会の青年部が清洲城の周辺をライトアップして行った事業がきっかけで、令和4年から市にも直接関わっていただいて、規模を拡大して実施されるようになりました。イベントの開催にあたって事業所の方にもご協力いただいている、清須市の冬の時期における1つの目玉イベントになってきているのではないかと思います。

また、先日、10月12日には、市と商工会がタイアップして、市主催の「清洲城信長まつり」と商工会主催の「清須産業まつり」を行ったのですが、会場にはとてもたくさんの来場者がいて、清洲城を活用した集客というのがかなりできているとおもいます。

特に、「きよすイルミ」期間中は、夜間の清洲城の延長営業もされていて、これでかなり集客が増えたのではないかと感じています。

(河津委員)

清洲城を中心に観光する人が増えてきているということで、とても良いと思うのですが、一方で、交通インフラの部分で、こういった交通機関でみえるかですか、駐車場や周辺の渋滞の緩和だとか、そういったと取組はありますか。

また、清須市を観光で訪れる外国人の方の状況や問題などありましたら教えてください。

(岩田係長)

清洲城へのアクセスということで、まずは公共交通機関で言いますと、JR清洲駅と名鉄新清洲駅から、どちらも概ね徒歩10分程度で清洲城へ来ることができるようになっています。

また、車でみえる方も非常にたくさんみえて、おっしゃるように、イベントの時期には駐車場に入れなかったり、それが原因で周辺道路の交通渋滞が発生したりということがありました。

そこで、令和6年度から清洲公園駐車場の拡張工事に着手をしまして、ちょうどその工事が10月上旬に完了したところです。

外国人観光客については、業務上、我々も何かあると清洲城周辺に行くことがあるのですが、本当に実感ベースの話ですと、いつ行っても結構外国人の方がいるなと感じます。

ただ一方で、外国人の方向けの観光案内などは十分にできているかという、なかなかそうならない部分があります。

今後、インバウンド需要を見込んで、外国人の方も来ていただけるような、また、来ていただいた外国の方が見て回りやすいような環境整備というものが、ひとつの課題だと考えています。

(小川委員)

私も資料の実績値を見て、すばらしい数字だなと感じました。

ただ、先ほど高山委員もおっしゃっていましたが、入場者数の実績が令和6年度は前年と比べて若干下がってしまったということで、今後減っていくことがないように、これからの対応も大切なのではと感じています。

「清洲ふるさとのやかたにおける中小事業者が製造した土産品の販売額」も上がっているのですが、なかなか私自身は、買ったり食べたりする機会というのはいずれもあまりなくて、口コミなども検索をしてみたのですが、あまり出てはきませんでした。こういった商品がもっと知られて、全国的に有名になるような、例えば「土田かぼちゃアイス」なんかも美味しいだろうと想像はするのですが、もっと口コミとか色が色んな方の目に触れるようになると良いなと感じました。

「清須からあげまぶし」も少し検索をしてみて、イベントがある時などは、キッチンカーで販売をされたりということもあるようなのですが、普段、地元の方がお店に行って食べに行くっていう機会っていうのは少ないと思うので、テイクアウトなどで安く気軽に食べられるような方法なども考えられると良いと思いました。

清洲城の入場者数も多くなっていますが、夏休み期間中、あしがるサイクルの無償化をされたっていうご説明があったのですが、それがあって来場者が増えたということはあるのでしょうか。あしがるサイクルの利用率はどうだったのか伺いたいです。

(岩田係長)

あしがるサイクルについては、具体的な利用者数等の実績が手元の資料になくて申し訳ないのですが、あしがるサイクルをやっているから清須市に行ってみようと思う方は、どちらかという少数であろうと考えていて、清洲城を目的に来ていただいた方が、レンタサイクルもやっているんだということで利用していただくケースっていうのがほとんどかと思われま。

また、あしがるサイクルのお話ですと、これまでは清洲城にしか貸出・返却のサイクルポートがなかったのですが、ちょうど今年5月に、西枇杷島福祉センターにもサイクルポートを開設しました。

市内の観光周遊というところで、美濃路周辺も本市における歴史資源ということで、サイクルポートを設置して取り組んでいるということもありますので、ご紹介させていただきます。

(水谷座長)

観光・産業の振興に向けた施策として、上手に国の交付金も活用しながら、様々な取組をされてきて、成果を出していただいたことが分かります。

一方で、課題も見えてきたということで、交通をいかに観光と連携させていくのか。また、まだまだSNSの戦略や口コミを上手に活用できるのではないかと。

地元の方にも「清須からあげまぶし」をもっと気軽に食べていただけるように

するにはどうしたら良いのか。

他には、外国人観光客のお話もありました。

それから、私も以前、この会議の場でお伝えさせていただいたことがあるのですが、もっと海外の市場にも目を向けたらどうかということもあると思います。国内の市場が縮小するのであれば、是非この機会に、特産品などの海外市場への輸出をしていくにはどうしたら良いか。少しハードルは高いとも思いますので、時間かけてで良いと思うのですが、若い方とかも巻き込みながら、海外に目を向けてはどうかと考えています。

また、大事なご意見として、清洲城という歴史資源を、いかに子どもたちの日常の中に溶け込ませて、自分のまちには清洲城がある、清須の歴史があるという誇りや地域への愛着みたいなものを育んでもらえたらというお話もいただきました。

皆さん、大変貴重なご意見ありがとうございました。

それでは、続いて、資料2の方の事業について、事務局から説明をお願いいたします。

(岩田係長)

続いて、資料2は、デジタル実装タイプという交付金のメニューを活用した、公共施設の予約システムの導入についてのご説明になります。

《資料2に基づき説明》

(水谷座長)

事務局からご説明いただいた内容について、委員の皆さまからご意見・ご助言などありましたらお願いいたします。

KPIについても、こういう指標でどうかということでも検討してきた結果ではあるのですが、改めて企業の皆さまから見て、こういう指標でも判断した方が良いのではないかとか、こういう取り組みをした方が良いのではないかなど、率直なご意見をいただけるとありがたく思います。

(高山委員)

資料の「5. 事業の成果を複数年にわたって計測するためのKPI」で、令和7年9月末時点では、まだ1施設も追加されていないということですね。今年度末までに11施設を追加で運用開始するという目標になっていますが、今後の見通しはどうでしょうか。どのような施設を候補として検討しているかというところも合わせて、教えていただければと思います。

(岩田係長)

事業計画の作成時点で、この資料にある通り11施設を令和7年度中に追加して運用ができるようにと考えておりました。追加できる施設については、おそらく年度末頃に一括での運用開始にはなるかと思えます。

想定している施設といたしましては、まだ現在運用開始されていない施設の中で、体育施設では、例えば春日B&G体育館ですとか、西枇杷島野球場や春日グラウンドといった野球やソフトボールのグラウンド、体育施設以外では、新川ふれ

あい防災センターや五条川防災センター、水の交流ステーションといった施設での運用拡大を予定しておりました。

このうち、実際にどこまで今年度末での運用開始が実現できるかというのは、まだ調整中ですが、可能な限り多くの施設への拡充ができるように検討をしています。

(河津委員)

今回、予約システムを導入されたということで、予約については便利になって良いと思うのですが、逆に予約をキャンセルする場合はどうかというのが気になりました。

他の自治体の話ですが、私が市の施設を借りた時に、利用日の1ヶ月前はもう予約のキャンセルはできませんと言われて驚いたことがあったので、清須市では、もう少し柔軟な対応をしていただけると、施設を利用する側も少し気が楽なのかなと思います。

あとは、KPIの「システム利用者の満足度」、「キャッシュレス決済利用についての満足度」は、共に今年度末で60%が目標となっているのですが、少し控え目な設定かなと思ひまして、もう少し高い目標を持っていただいてもいいのかなと感じました。

(岩田係長)

清須市の現在の運用としては、先ほど河津委員がおっしゃったよりは、キャンセルがしやすい運用になっておりまして、利用日の実質4日前まではキャンセルが可能で、システム予約時で事前に支払っていただいた施設使用料も返金がされる仕組みになっています。

一方で、キャンセルしやすいがゆえに、事前にオンラインで多めに予約を取っておいて、後から使用しなくなった枠をキャンセルするといった使い方がされていることも多くあるのが実情となっておりまして、利用者の利便性・公平性と職員側の業務量の負担のバランスを見ながら、ちょうど良い運用については今後も検討が必要かなというふうに考えております。

KPIについては、当然、満足度は高ければ高い方が良いということはあるのですが、システムの運用を開始してまだ間もないというところで、利用者の方も使い勝手が分からなくて不便を感じる部分もあるかと思ひます。運用の部分で使い勝手を良くすることも検討を重ねながら、徐々にシステムの利用者の割合と満足度を高めていき、令和8年度末には80%という目標を達成できたらと考えています。

(水谷座長)

はじめのうちは色々と改善すべき点が出てくると思ひますので、利用者の方からのご要望など、丁寧に聞けると良いですね。

(岡本委員)

公共施設の予約システムを導入されて、利用者としては大変便利になったと思うのですが、こちらは、清須市民だけが利用できるものになるのでしょうか。

また、例えば将来的に、他の自治体と連携するといったことは想定されている

のでしょうか。

(岩田係長)

システムの利用は、市民に限るものではなく、利用を希望する方はIDの登録をしていただき、利用していただくこととなります。

また、現時点で、他の市町とのシステムの連携は想定していません。

(倉形委員)

デジタル化を推進されていることは、効率化や市職員の方の生産性を高めていく上で、非常に大事なのかなと思いますので、どんどん進めていただくと良いと思いました。

先ほどの他の委員の方のお話とも少し重なる部分があるのですが、市全体で施設予約をすることができる施設が全部でいくつあるのかという全体像が先にあった方が良くて、今回は、そのうちの20施設に導入ができましたという話になると思うので、まずは全体像を示していただいた方が良いと思います。

おそらく、この20施設というのは、運用上システム導入がしやすい施設から、試行的に進められたのではないかと思うので、そこがもう少し分かりやすくなると良いと思いました。

また、この施設というのも、元々市民の方々の税金で作られた施設だと思うので、市民の方に何かしらの優先権があったほうがいいのかとも思いました。例えば、市民は3か月前から予約ができて、市外の方は1か月前からしか予約ができないとか、何か差別化がされるような仕組みにはならないのでしょうか。

なかなか難しいかもしれないので、どこかの施設でまず1箇所試験的にやってみて、評判聞いてから横展開するようなかたちでも良いかと思います。ご検討いただけたらと思います。

(岩田係長)

現在、市内で施設使用料をいただいて貸出しをしている施設が全部で27施設ありまして、これに小中学校のグラウンドが12施設、小中学校の体育館等ということで12施設、合わせて概ね50の施設があるという状況です。

先ほど倉形委員もおっしゃっていただいたとおり、このうち、まずは運用上システムの導入がしやすい施設から試験的に導入をしたという状況でして、例えば高齢者福祉施設など、利用者の層があまりシステムの利用になじまないですとか、その他の運用上の問題があったりして、導入に向けた検討を保留してあるような施設もあります。

とはいえ、せっかくこのようなシステムを導入しましたので、逆に、予約に関する運用自体を見直すことで、こういった施設でもシステムの導入が可能となるケースもあると思いますから、運用自体の見直しも図りながら、ひとつでも多くの施設に運用を拡大していけると良いと考えています。

(小川委員)

私は個人的に、他の市ではあるのですが施設のホールを借りることがあるのですが、清須市では、施設の予約が早いもの勝ちなのか、又は何か月か前の抽選で当否が分かるのか、どのように運用されていますか。早いもの勝ちというものも、

少し不公平感があるなど感じて、空き状況を見ながらいつでもどこでも予約できますと言っても、施設が空いていなければ一切借りることができないのか、そういった運用をどうされているか伺ってもよいでしょうか。

(岩田係長)

まず、前提として、システムでの予約が可能な施設でも、現在は、システムでの予約、施設窓口での予約をどちらも並行して行っています。

そして、各施設の予約開始は、利用日の約3か月前から申請ができるように開放されまして、そこから抽選日までの数日間で、複数の予約申請があった部屋については抽選を行い、当選した方が施設を利用できるといったかたちです。

抽選日を過ぎた時点で、まだ予約が入っていない部屋については、以降、順次予約申請をした方が早いもの勝ちで予約を確定できるといった運用となっています。

3 議事(2) 清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略2020の評価・検証について

(水谷座長)

それでは、議事(2)「清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略2020の評価・検証について」の説明を事務局からお願いします。

(岩田係長)

《資料3に基づき説明》

(水谷座長)

事務局からご説明いただいた内容について、委員の皆さまからご質問やご意見がございましたらお願いします。

(倉形委員)

定住する若い世代を増やすということは、恐らくどこの自治体でも喫緊の課題となっていて、なかなか難しい課題なのだろうと思います。

私が、20代から40代ぐらいの年齢で、家を探す時にどのようなことを優先したかなんかということを考えてみると、やはり最初に思い浮かぶのは教育のことなのかと思いました。

特に、働く場所というのは名古屋市や清須市にも結構たくさんあるとなると、名古屋市に住まないで、清須市に住むっていうメリットって何なのかということ突き詰めて考えていく必要があるのかなと思います。

名古屋市に比べて、子育てや教育の部分でこんなメリットがあるという部分をもっと明確にしてアピールしていく。

ただ、そのアピールポイントを探すのが多分すごく難しいんじゃないのかなんかと思ったりもするので、そういった目玉になるような施策みたいなのをみんなで見出し合って考えていく。こういうことがひとつ大切だと思いました。

もうひとつ、この総合戦略の中には、あまり災害への対策といったところは記載が無かったのですが、安心して暮らせるということはとても大事な部分だと思います。

私は東京の出身なのですが、どちらかというとやはり高台の方に住みたがる人って結構多いんですよ。

もし、この地域が少し低い場所なのだとすると、水害への対策としてこういった取組をしているから、住んでいて安心してできるといったことをもっとアピールできるのではないかなと思います。

家を建てるってその方の人生において結構なことなので、そういう部分が気になったりするのかと思います。災害に強い地域だということが皆さんに伝わると良いので、そういったことも意識してもらえると良いと思います。

(水谷座長)

子育て・教育と、災害に強くて安心して住めることが大事で、これをしっかりとアピールしていく。非常に重要なことだと思います。

(高山委員)

資料2ページに、あいち朝日遺跡ミュージアムの活用という話があります。

こちらは愛知県の施設ですので、県と市の連携という部分で、小学校とかそういう学校教育の中での活用など、具体的に何か行っていることがあれば教えていただきたいです。

(岩田係長)

まずは、学校教育といったところとは別の部分での話なのですが、このミュージアムがオープンするタイミングで、清洲城とミュージアムの共通入場券を作って販売していたり、清洲城とミュージアムをつなぐ遊歩道の整備をしたりと、市内の資源を効果的につなぐ連携の取組を行いました。

また、学校教育の中では、各学校における課外学習で市の施設を訪れて、触れてもらうということで、このミュージアムにも来て、地域の歴史に触れてもらう機会をつくっています。

(高山委員)

朝日遺跡は、現在の清洲東ジャンクションの向こうまで広がるとも大きな集落で、弥生時代と言うと稲作というイメージですが、実は戦闘集落として有名な所です。

私が小学生の頃、郷土のことを学ぶというと織田信長の話が出てくるのですが、朝日遺跡のことはあまり学んだ記憶がないと思うので、是非、このミュージアムも、子どもたちの郷土愛を育むという意味でも活用できると良いと思います。

(名倉委員)

基本目標を①から③までを見て全体的な感想で言うと、やはり①と③の、どうしても人に関するところで、市民との協働ですとか、担い手を育てていくという部分で、少子高齢化の影響が大きく表れているなど感じます。

これは、市だけの問題でなくて、商工会でも共通の課題となっているのですが、特にリーダーを担う存在、何か役割を担っていただける方というのが少なくなっています。

特に、若手の事業所さんなんかは、自分の事業だけで精一杯で、こういう地域に貢献するということが、やりたくてもなかなか余裕がないというような現状だと思います。

商工会の現状の役員を見ても、やはり60代、70代、ともすると80代の役員の方がほとんどということで、若手ですと、例えば青年部の部長といった方でも30代、40代というような状況です。

本当にこれは喫緊の課題となっていて、国も対策に力を入れてみえるとは思いますが、こういった目標については、やはり右肩上がりのような目標設定をすると、とても達成できないというようなことを、改めてこの結果を見て感じました。

あくまでも意見として申し上げますと、数値目標というと基本的には増やしていくという高い目標にせざるを得ないのかもしれませんが、現状維持又は多少減少していくことは、もう避けられないのではないかと思います。

やはりこう拝見すると、現実には少子高齢化の影響が出ているな、地域の担い手が不足しているなということを、商工会の立場で事業者さんと接する中でも、特に感じているところです。

また、基本目標の②を見ますと、市内の民営事業所は、平成28年に比べると増えていますね。

事業のかたちが多様化して、数は割と増えてはいるという実感もあるのですが、商店だとか、街道沿いにお店を構えるような店舗は少なく、例えばマンションの1室でインターネットを利用して事業を行っているとか、そういうかたちが増えていると思います。

あとは、サービス業ですね。そういった業種は増えているのですが、それを継続して5年、10年と商売していくということはなかなか難しい時代になったなと感じていて、これは私たち商工会の課題でもあるのかなと思います。

(水谷座長)

非常に重要なご指摘だと思います。

日本の総人口は、出生率の低下を加味すると、今後50年で半減、100年で10分の1になるとも言われています。清須市だけを見れば、もう少し緩やかかもしれませんが、このように人口が減少していくことを前提に、新しく目指すべきところをもう1回考え直していくことも必要かもしれないと思いました。

(岡本委員)

総合戦略ということで、清須市では、「清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略推」を策定されて、同様に愛知県でも県の戦略を策定しています。

今年6月には、国が地方創生2.0いうことを打ち出しまして、国の戦略を12月に改定する予定とされています。県の方も、それを見据えて、今後どうしようかというのを検討しているのですが、そのあたりどのように考えておられるのかなということをお伺いしたいです。

また、資料2ページのKPIの部分で、「保育園の入園待機児童数」が、最終年度に10人出てしまったということについて、なにか原因があったのだろうと思ひまして、分かれば教えていただきたいです。

もうひとつ、先ほども地域への愛着・誇りといった話が出ていて、我々、愛知県も考えてはいるのですが、それを育てることはなかなか難しいところです。

我々は、県の規模感で見ているものですから、市町村の単位とはまた少し違うのかもしれませんが、清須市として、近隣で言えば例えば名古屋市との違いはどんなところにあるのかなど、ありましたらお伺いできたらと思います。

(清須市)

まず、国の新しい戦略を受け手というお話については、清須市の新しい総合戦略である「清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略 2025」を昨年度策定して、今年4月からその計画期間がスタートしたばかりということで、現段階では、それをまたすぐに見直し、改定するといったことは考えられていない状況です。

2つ目、保育園の入園待機児童が発生した要因としましては、女性の社会進出に伴いまして、3歳未満児、特に1歳児の入園希望が増加しております。3歳未満児の保育となりますと、子ども1人当たりに必要な保育士数も多く必要になってまいりますので、そういった理由で待機児童が発生したと分析しています。

3つ目、住民のまちへの誇りや愛着みたいところは、少し、委員のご質問の趣旨とはずれてしまう部分もあるのですが、実は今年、令和7年は、清須市が誕生して20周年という節目の年となっていて、市制20周年事業を実施しているところです。

その中で、例えば今、我々職員が来ているポロシャツなんかにも、20周年のロゴマークがあしらわれているのですが、このロゴマークは、世界的に有名な、清須市にゆかりのある漫画家 鳥山 明 先生にデザインいただきました。

このロゴマークやなんかも市制20周年の啓発に活用しながら、20周年事業として、イベントに参加していただいたり、市の魅力を発信して触れてもらったりといったことを進めて、市への愛着が生まれると良いということで、様々な取組を行っています。

(水谷座長)

私からもひとつ意見があるのですが、子育て世代の、特に女性の意見というのが、もしかしたら上手く聞けていない、コミュニケーションが上手にとれていないのではという懸念があります。

もし可能であれば、例えばこの会議のメンバーとして、PTAの代表の方や、NPO・ボランティア等で子育て支援されている方、保育園・幼稚園の現場を知っているような方に参加していただくとか、少なくともそういった方々と話し合いをする機会を何度も設けるとか、そういったニーズをしっかりと把握するとともに、その方々との繋がりをつくっていくということが、とても大事なんじゃないかなというふうに思っております。

今すぐというわけではないですけども、少し長期的に考えて、そういった方々の声を聞いていったらどうか、一緒に考えてもらってはどうかと思います。

3 議事(3) 物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用した事業について

(水谷座長)

それでは、3つ目の議事に入ります。

議事(3)「物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用した事業について」の説明を事務局からお願いします。

(岩田係長)

《資料4に基づき説明》

(水谷座長)

事務局からご説明いただいた内容について、委員の皆さまからご質問やご意見がございましたらお願いします。

事務局として、特にこの会議で意見して欲しいことなどはありますか。

(岩田係長)

低所得世帯等への給付事業は、国が制度設計をして全国的に行った事業になりまして、市の独自施策としては、1ページ目の項番3「清須げんき商品券発行事業」になります。特に、この独自施策に対して、ご意見をいただけますと幸いです。

(名倉委員)

清須げんき商品券は、商工会も事業に携わらせていただいている、昨年度もこの会議でお話しさせていただいたように、市内の事業所にとっても消費喚起ということでプラスになっていますし、それを利用される住民の皆さんも生活支援として助かっているということで、とても効果的な事業だと思います。

ただ、何年も継続して行ってきた中で、少し代わり映えがしないなということもありまして、皆さんが利用される勢いが若干落ちてきているのかなとも感じます。事業としては良いものだと思いますので、例えば、利用者や事業者からアンケートを取られたりして、アイデアを出していただいている見直しをしていくといったことで、もっと事業として良い方向に向かっていくのではないのかと思います。

(水谷座長)

清須げんき商品券が使用できるお店はどのようなお店で、どれくらいあるのでしょうか。

(名倉委員)

市内の事業所で、登録をしていただいた店舗で使用できます。

正確な数は、資料が手元になくて分かりませんが、以前と比べると登録店舗は減ってきている傾向があります。

また、この商品券には、中小店舗限定で使用できる500円の券も付いているのですが、事業所側からすると、これが逆に少し複雑にできてしまっていて分かりづらいということで、登録を見送られる事業所も中にはございました。スーパーや大型店舗以外でも使用してもらえるように、そういった工夫をしていただいているのですが、それも良い面があれば、悪い面もあるということがあって、シン

ンプルで分かりやすいものにする、登録店舗が増えるという意見もあると思います。

(水谷座長)

この商品券は、電子商品券での販売もしているのでしょうか。

(名倉委員)

高齢者の方も多く利用されるということもあって、電子での販売はしていません。

(高山委員)

清須げんき商品券で、お得に買い物ができて助かっている人がたくさんみえると思います。私も何年か前に購入したことがあるのですが、その時は気づいたら使用期限が終わってしまっていたということもありますので、使用期限がいつまでだというPRも大切かもしれません。

(水谷座長)

以上で、本日予定しておりました議事は全て終了しました。

それでは、事務局にお返しします。

4 閉会

(神野企画政策課長)

本日も、たくさんのご意見を頂戴しましてありがとうございました。

いただいたご意見を踏まえて、今後の取組に生かしていきたいと思っております。

それでは、以上をもちまして本日の会議を終了とさせていただきます。

長時間にわたり、誠にありがとうございました。

問い合わせ先	企画部企画政策課 052-400-2911 (内線3213)
--------	-----------------------------------

会議の経過を記載して、内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。

署名委員 河津 智寛

署名委員 高山 孝治